

一般社団法人 群馬建築構造設計事務所協会 GSAS

「令和元年度 第1回研修会」 報告

令和元年8月

GSAS 会長 井野公雄

GSAS 会員 山口幸治

8月6日(火) (一財)群馬県建築構造技術センター会議室において、『構造設計と構造施工の留意点』～2019夏の陣～ と題して、研修会を開催いたしました

「より良きものづくり」のために、「施工」の立場から「設計」に対する問題点と改善案の提起の場を設け、今後の構造設計に反映させる事を目的としました。

【研修1】 鉄骨工事製作現場から見た鉄骨構造

冬木工業株式会社取締役 吉澤裕之様

- 直近の工場の生産量の推移
- 某工事における部材加工・組立・溶接等の内訳および生産工程の説明
- 昨年より社会(業界)問題となっている高力ボルトの品不足・納期遅延について、材料の入手と工期により受注の可否を判断している
- 設計図とおりでは生産加工が出来ないケースと対応策の紹介
- 設計図における表示不足が問題、表示不足解消を設計側に要
- 設計時に鉄骨製作者に相談・打ち合わせが出来無いか?(要望)



【研修2】 鉄筋工事RCの未来のために～群馬から新基準を～

株式会社高鐵工業代表取締役会長 大根原章友様

- 鉄筋工事に関する特記仕様書・配筋標準図が個々に数多くあるため施工に混乱する事がある。仕様を統一出来ないか(要望)
- 施工が開始したあとで図面変更が生じ、その都度積算作業が必要となる。変更を発生させないように出来無いか(要望)
- 鉄筋工事が減少しているため後継者不足が問題となっている。このことは技術の継承が出来無い事のもなる。
- 設計図における表示不足が問題となっている。また施工困難な設計表示がある。



- また意味不明な表示がある。情報不足の改善を要望